

第3次

天城町まち・ひと・しごと創生

総合戦略



令和7年3月
鹿児島県 天城町

目 次

第1章 はじめに

1. 策定の背景 1
2. 基本的な考え方 1
3. 総合戦略の位置づけと計画期間 2

第2章 第3次総合戦略の策定に向けて

1. 第2次総合戦略の検証 3
2. 天城町人口ビジョンについて 3
3. 策定体制 4

第3章 第3次天城町まち・ひと・しごと創生総合戦略

1. 第3次総合戦略の将来像と基本目標 5
2. 基本目標の方向と施策目標等 6
 - 基本目標1 天城町で暮らすすべての人が活躍できるしごとを創る 6
 - 基本目標2 多様な「関係人口」を増やし、地域力を高める 13
 - 基本目標3 子どもに、家族に、地域に優しい子育てを実現する 18
 - 基本目標4 豊かなシマを守り、次世代へつなげる地域をつくる 23

参 考 第3次天城町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の経過

1. 第3次総合戦略策定に係る主な検討経過 28
2. 天城町まち・ひと・しごと創生本部名簿 29
3. 天城町まち・ひと・しごとプロジェクトチーム名簿 30
4. 天城町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定審議会名簿 31

第1章 はじめに

1. 策定の背景
2. 基本的な考え方
3. 総合戦略の位置づけと計画期間

1. 策定の背景

国は、デジタル技術の活用によって様々な社会課題を解決し、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す「デジタル田園都市国家構想」の実現に向け、「第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂し、2022年（令和4年）12月に「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定しました。県においても、当該戦略を踏まえ、「第2期鹿児島県まち・ひと・しごと創生総合戦略」が改訂されています。

本町では、2015年（平成27）10月に策定した「天城町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「第1次総合戦略」という。）」、2020年（令和2年）3月に策定した「第2次天城町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「第2次総合戦略」という。）」に基づき、人口減少や地域経済縮小の抑制に向けた取組を展開してきました。

今回、第2次総合戦略が計画期間の終期を迎えるにあたり、本町においても国・県が策定した総合戦略を踏まえ、デジタルの力を活用し、地域課題の解決や付加価値の向上に取り組むため、「第3次天城町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「第3次総合戦略」という。）」を策定し、さらなる地方創生に取り組むこととします。

2. 基本的な考え方

国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」では、これまでの「まち・ひと・しごと創生総合戦略」によって進められてきた地方創生の流れを、デジタルの活用だけでなく、蓄積されてきた成果と知見に基づき、改善を加えながら各種取組を推進することが重要としております。

本町においても、将来にわたって町民がいきいきと暮らし続ける天城町を目指すため、第1次総合戦略と第2次総合戦略の推進（検証）結果を踏まえ、これまでに蓄積された成果等に加え、将来に向けた新しい視点を見据えながら、天城町の地方創生の実現に取り組みます。

また、総合戦略の推進においては、行政だけでなく、町民や民間企業など、様々なプレイヤーと協働していくことが不可欠であることから、積極的に町内外の多様な人材・組織との連携を図りながら、「第3次総合戦略」をより効果的に推進していきます。

3. 総合戦略の位置づけと計画期間

本町の総合戦略は、「天城町総合振興計画」に内包されるものであり、人口減少や少子化対策、地域経済の活性化に対して、より効果的と考えられる施策を整理し、定めたものです。

第3次総合戦略の計画期間は、2025年度（令和7年度）から2029年度（令和11年度）までの5年間とし、第6次天城町総合振興計画（AMAGI-VISION）との整合性を保ちつつ、社会情勢や地域ニーズを的確に捉え、新たに取り組む施策等の追加・見直しを行っていきます。

第2章 第3次総合戦略の策定に向けて

1. 第2次総合戦略の検証
2. 天城町人口ビジョンについて
3. 策定体制

1. 第2次総合戦略の検証

第2次総合戦略においては、「天城町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定審議会」の外部委員を中心とする「天城町総合戦略推進会議（以下、「推進会議」という。）」において、施策の効果的な実践に向けた意見を聴取し、P D C Aサイクルに基づいて総合戦略を推進することとしておりました。

しかし、第2次総合戦略の策定直後に始まった新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、様々な活動に制限がかかったことで、多くの施策が計画どおりに執行出来なかったのが実情でした。推進会議の組織や総合戦略の定期的な検証作業もできず、第2次総合戦略に記載したK P Iの検証結果を以て効果を判断することが困難でした。

第2次総合戦略における数値目標（12項目）、K P I（39項目）について、各課において令和5年度の事業実績をベースに検証した結果は考慮しつつ、第3次総合戦略において目標値やK P Iを再度設定し、総合戦略を推進していくこととします。

2. 天城町人口ビジョンについて

天城町人口ビジョンは、本町の人口動態の現状や課題、目指すべき人口の将来展望を提示し、人口問題に関する町民の認識の共有を図ることを目的に策定したものです。

2015年（平成27年）に策定した当初の人口ビジョンでは、合計特殊出生率の上昇と人口の社会増を仮定し、「2040年の人口5,580人の維持」を目標として第1次総合戦略に基づく施策を展開しましたが、国勢調査の総人口で比較し、2015年度（平成27年度）5,975人が2020年度（令和2年度）5,517人と、減少幅は小さくなったものの、人口減少に歯止めがかかりませんでした。

2020年（令和2年）に策定した第2次人口ビジョンでは「2040年の人口5,000人の維持」を目標として第2次総合戦略を展開しました。当該期間はコロナ禍の影響により、テレワークなどの新しい働き方や地方移住のニーズが高まったことを踏まえ、移住の推進に取り組みました。その結果、2024年（令和6年）1月に公表された2023年（令和5年）の「住民基本台帳人口移動報告（総務省）」において転入超過に転じました。正確な比較ではないものの、2024年（令和6年）10月1日時点の住民基本台帳搭載人口では5,471人となっており、人口は減少しつつも、減少幅が抑制されつつあると推測されます。

これらを踏まえ、引き続き第2次天城町人口ビジョンにおける目標値である「2040年の人口5,000人の維持」を目指し、第3次総合戦略を推進していきます。

3. 策定体制

〈天城町まち・ひと・しごと創生プロジェクトチーム〉

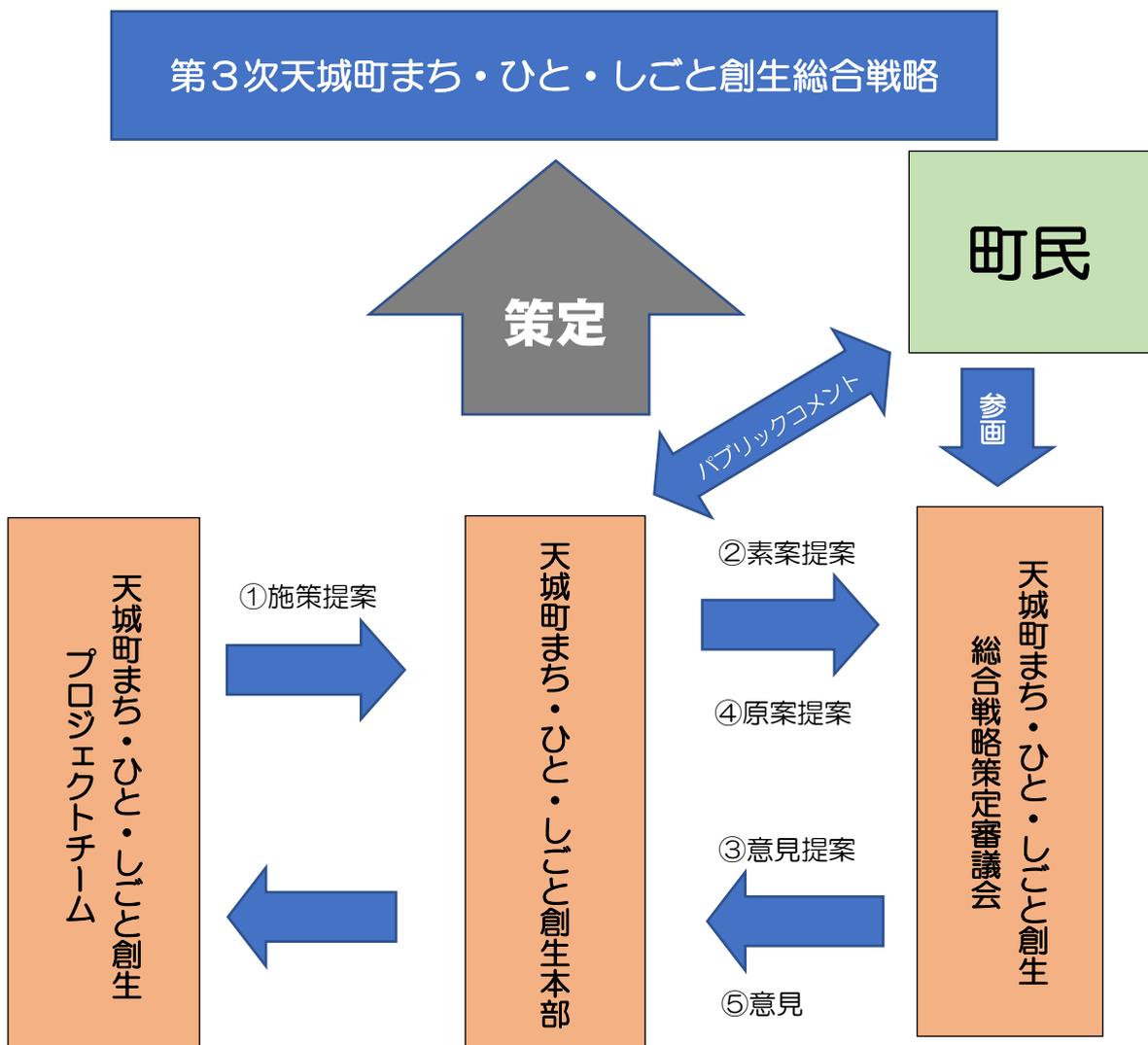
若手・中堅職員を中心とするメンバーで構成し、「経済・地域振興チーム」と「住民福祉・教育チーム」に分かれ、グループワーク等において現状把握や課題抽出を行い、施策やプロジェクトの検討・提案、KPI設定等を行います。

〈天城町まち・ひと・しごと創生本部〉

町長を本部長、副町長を副本部長とし、教育長及び課長・局長で構成し、プロジェクトチームからの提案や庁内からの意見等を集約し、本町が進むべき将来像を明確にした上で総合戦略を策定します。

〈天城町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定審議会〉

町民代表と産官学金で構成され、総合戦略の策定段階では素案・原案について多様な視点で意見提案を行います。



第3章 第3次天城町まち・ひと・しごと創生総合戦略

1. 第3次総合戦略の将来像と基本目標

2. 基本目標の方向と施策目標等

基本目標1 天城町で暮らすすべての人が活躍できるしごとを創る

基本目標2 多様な「関係人口」を増やし、地域力を高める

基本目標3 子どもに、家族に、地域に優しい子育てを実現する

基本目標4 豊かなシマを守り、次世代へつなげる地域をつくる

1. 第3次総合戦略の将来像と基本目標

本町は、令和6年10月に“誰もがこころ豊かに笑顔で暮らせる町”を目指して「ジェンダー¹平等推進のまち あまぎ」を宣言しました。また、令和6年11月には、農業をはじめとする第一次産業と自然・文化遺産が調和し、持続可能な観光地域づくりに取り組む優良地域として、国連世界観光機関（UN Tourism）が認定する「ベストツーリズムビレッジ」に九州で初めて選出されました。先人達から脈々と受け継がれ、育まれてきた自然・文化・産業を次世代にしっかりと継承するとともに、次世代を担う若い力や女性が活躍できる社会・多様性を認め合う地域社会の形成など、時代に即した取組も重要であると捉えています。

こうした背景を踏まえ、地方創生の基本となる「人口減少対策」「地域活性化」「ウェルビーイング（地域幸福度）の向上」を図るため、第3次総合戦略においては、第6次天城町総合振興計画（AMAGI-VISION）で掲げる「ユイの心で命つむぐまち あまぎ」の基本理念の下、「若者や女性に選ばれるまち」「全ての町民が WakuWaku 感を持ちチャレンジできるまち」を将来像に位置付けます。あわせて、第2次総合戦略で掲げる基本目標を第3次総合戦略においても継承し、デジタルの力を活用しながら地方創生を加速化します。

将来像

- ・ 若者や女性に選ばれるまち
- ・ 全ての町民が WakuWaku 感を持ちチャレンジできるまち

基本目標 1 天城町で暮らすすべての人が活躍できるしごとを創る

基本目標 2 多様な「関係人口」を増やし、地域力を高める

基本目標 3 子どもに、家族に、地域に優しい子育てを実現する

基本目標 4 豊かなシマを守り、次世代へつなげる地域をつくる

¹ 社会的・文化的に形成された性別のこと。

2. 基本目標の方向と施策目標等

基本 目標

1 天城町で暮らすすべての人が活躍できるしごとを創る

人々が地域に定着するためには、地域経済の活性化を図り、多様な人材が自らの能力を十分に発揮し、生活の糧となる安定した所得が得られる就業の場を確保することが必要です。

本町の地域経済を支えてきた農業をはじめとする第1次産業の持続的発展を目指すとともに、製品の収益力強化と経営基盤の安定化、担い手の育成・自立に繋がる施策を講じます。

さらに、農林水産物の付加価値を高めるために、消費者ニーズを捉えた特産品開発や加工品製造から流通・販売までの6次産業化と併せて、地産地消を推進し、町内・島内における経済循環を高めることで地域経済の活性化を図ります。

観光産業については、2021（令和3）年の世界自然遺産登録や2024（令和6）年のベストツーリズムビレッジ認定を契機とし、本町の魅力ある資源を活かした観光コンテンツのブラッシュアップや情報発信、外国人観光客（インバウンド）を含めた受入環境整備に取り組み、住民生活と調和した持続可能な観光振興を進めます。また、2026（令和8）年に開館予定のあまぎ自然と伝統文化体験館を核とした、各種観光施策を展開します。

働き方が多様化する現代において、年代や性別に関わらず、誰もが理想とする創業・就労を支援するとともに、人材の確保・育成につながる施策や地元企業をはじめとした様々な民間事業者と連携し、すべての人が活躍できる機会の創出と官民一体となった地域経済活性化に取り組みます。

<数値目標>

目標項目	基準値	目標値（2029/R11）
住民税所得割納税義務者割合 （住民税所得割納税義務者数／生産人口）	57.57%（R6）	70.0%

基本目標 1 – 施策目標

< 1 > 稼ぐ第 1 次産業の実現と 6 次産業化の推進

本町の基幹産業である農業をはじめとする第 1 次産業について、経営の維持及び発展のため、新規就業や担い手育成を推進します。

農業については、農畜産物の高付加価値化や競争力強化を図り、収益性の向上、省力化、低コスト化、新たな品種や生産技術の導入など、農家の新しいチャレンジに対する支援を進めていきます。また、環境への負荷を低減した持続可能な循環型農業の推進と、最先端技術の活用によるスマート農業の推進を図ります。

林業については、島内産材の普及と利用促進に努め、持続可能な林業経営を支援します。また、天城町獣肉加工処理施設「山猪工房あまぎ」における猪肉の販売や加工品開発に取り組みます。

水産業については、天城町水産業振興拠点施設「うおっちょ」を拠点に水産物の新たな加工品・新メニューの開発に取り組み、水産物の販路拡大や地産地消を推進します。また、漁業従事者を確保するための支援や最先端技術を活用したスマート水産業の推進など、水産業全体の活性化を図ります。

農林水産物の付加価値を高め、農林漁業者の所得向上や雇用確保を目指すため、6 次産業化を推進し、地域経済の活性化を図ります。

< 関連する SDG s 目標 >



重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (2029/R11)
農畜産物生産額	43 億 5 千万円 (R5)	45 億円
水揚金額 ※年次計算	2,200 万円 (R5)	3,000 万円
「うおっちょ」の年間売り上げ	1,100 万円 (R5)	2,800 万円

具体的施策

新規商品開発支援プロジェクト	島内産の農産物を活用し、「島らしさ」をモチーフとした加工品等のアイデアコンテストを開催し、最も魅力的なものを生産から販売までを行う。
オンライン商店街推進プロジェクト	生産者や事業者向けに専門家を招聘し、販路拡大やオンライン化の手法を学ぶことで、特産品の販路拡大を図る。
地域商社設立支援プロジェクト	地域商社の設立を支援することで島外への販路を拡大し、域外からの外貨獲得を図る。
特産品ブランド化推進プロジェクト	地域資源や希少種をモチーフに町の農林水産物を使用した高付加価値の加工品を町の特産品としてブランド化する。オリジナルパッケージや地域の魅力を掛け合わせたPV等で情報発信し、生産者や加工業者の所得向上を図る。
天城町6次産業化推進支援プログラム	行政×農業・漁業従事者×加工業者が一体となって6次産業化を推進する。新規商品開発や販売促進を支援するため、研修や講習会を開催によるスキルアップ、SNS等を活用した全国的なマーケティング支援、開発に係る経費の支援等に取り組む。
地産地消応援隊	島内の小売店で町内産の農産物・水産物の取扱い数量を増やし、地産地消を促す。
島農業復活プロジェクト	さつまいもや落花生、島らっきょう等の栽培を促進し、輪作によって年間を通じた畑の有効活用と農家所得の向上を図る。
有機農業の推進（堆肥の活用等）	家畜排せつ物や作物残渣等を活用して堆肥化を推進し、有機農業の推進に取り組む。

基本目標 1 – 施策目標

< 2 > 魅力あふれる天城町型観光の推進

観光産業は宿泊・交通・飲食店・小売店はもとより、提供する食を支える農林水産業や特産品の製造販売に携わる商工業など、様々な分野と関連する総合産業です。これまでの天城町における観光形態は景勝地を周るスタイルが主であり、経済効果が限定的でした。観光産業を地域経済をけん引する総合産業としての強化を図るため、体験・滞在型観光を主とした天城町型観光の確立を目指します。

世界自然遺産やベストツーリズムビレッジの町として、自然環境や伝統文化の保全に努めながら人々の暮らしや地域の産業と調和した満足度の高い観光地づくりを進めるため、主体となる組織体の構築に努めます。

豊かな自然環境や伝統文化、島ならではの暮らしを体感できる体験型観光プログラムの充実やツアーの造成を図るとともに、担い手の育成支援や戦略的な広報宣伝に取り組みます。

外国人観光客（インバウンド）等の受入環境整備や二次交通の拡充、地域住民の生活や自然環境に配慮した持続可能な観光形態を構築するための仕組み作りを推進します。

また、2026（令和8）年に開館予定のあまぎ自然と伝統文化体験館を天城町における観光の中核拠点施設として捉え、あまぎ自然と伝統文化体験館を起点とした周遊観光を推進します。

<関連する SDGs 目標>



重要業績評価指標（KPI）	基準値	目標値（2029/R11）
徳之島への入込客数	131,295 人	200,000 人
あまぎ自然と伝統文化体験館 来場者数	—	38,500 人/年間
天城町国立公園等多言語サイトアクセス数 ※年次計算	1,596 件	3,000 件

具体的施策

VRコンテンツ推進事業	水中鍾乳洞「ウンブキ」や世界自然遺産に登録された美しい森、町内の景勝地等のVR映像を制作し、島内外の施設やイベント等において体験ブースを設け、非日常を体験してもらうことで観光客の増加を図る。
人流可視化プロジェクト	天城町に来た人の町内における移動データを収集、分析することでの的を絞った観光施策を推進する。また、公共交通や住民サービスの向上を図る。
グリーンツーリズム ² ・ブルーツーリズム ³ ・スポーツツーリズム ⁴ の推進	農林水産業や豊かな自然、トライアスロンやスポーツ合宿等、徳之島の魅力を満喫できるような観光を推進する。
魅力ある体験型観光プログラムの造成と情報発信	徳之島の豊かな自然や伝統文化を活用した体験型観光プログラムを造り、1日でも長く天城町に滞在してもらう環境をつくる。

² 農村地域において、その自然、文化、人々との交流を楽しむ余暇活動のこと。

³ 漁村や離島に滞在して海洋レジャー等を楽しむ余暇活動のこと。

⁴ スポーツの観戦や参加を目的とした余暇活動のこと。

基本目標 1 – 施策目標

< 3 > 雇用の創出と創業・就業支援の強化

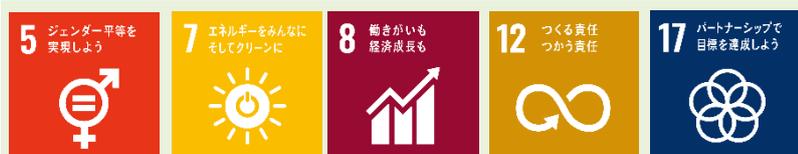
創業者・経営者の育成支援や創業に向けたチャレンジを後押しするとともに、各事業所が持つ優れた技術や経験を継続・発展させるため、事業承継を支援し、後継者不足の解消や新たなしごとの創出を図ります。

新たな創業を支援するため、これまで実施してきた各種支援事業を継続・拡充し、事業者の新陳代謝を促し、商工業の活性化を図ります。

地域課題解決に向けたスタートアップ⁵やエコシステム⁶の確立、各種産業におけるDX⁷を推進し、イノベーション⁸の創出を図ります。

近年、様々な分野で人材の確保や育成が大きな課題となってきました。事業所側が必要とするスキルや就業希望者の多様な働き方のニーズも踏まえ、年代や性別にかかわらず、すべてのひとが安心してしごとができる環境づくりに取り組みます。

< 関連する SDGs 目標 >



重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (2029/R11)
従業員数 ※経済センサスより	2,010 人 (R3)	2,085 人
町が実施する支援事業を活用した起業件数 ※累計値	13 件 (R5)	45 件

⁵ 先進的なアイデア・技術を強みに新しいビジネスを作り出す企業や組織、プロジェクト等。

⁶ 様々な業種の企業がそれぞれの技術やノウハウを共有しながら収益を上げる構造。

⁷ デジタル技術を活用して社会や生活の形を変えること。デジタルトランスフォーメーション。

⁸ 技術革新。

具体的施策

オンライン商店街推進プロジェクト (再掲)	生産者や事業者向けに専門家を招聘し、販路拡大やオンライン化の手法を学ぶことで、特産品の販路拡大を図る。
地域商社設立支援プロジェクト(再掲)	地域商社の設立を支援することで島外への販路を拡大し、域外からの外貨獲得を図る。
農福連携～天城町シニア福祉農園プロジェクト～	「シニア&福祉農園」など、高齢者や障がい者が働ける場を提供する。農業を通じて地域の生産力向上だけでなく福祉の充実を図る仕組みを構築し、地域全体で支え合う地域づくりを推進する。
企業誘致の推進	島外からの企業誘致を推進し、働く場をつくる。
きばれ起業家応援事業補助金	町内で創業する起業家に対し、補助金を交付する。
平土野地区起業家支援事業補助金	平土野地区で創業する起業家に対し、補助金を交付する。
平土野地域活性化基金活用事業補助金	平土野地区で飲食店を創業する起業家に対し、補助金を交付する。
U I ターン起業家支援補助金	U I ターン者であって町内で創業する起業家に対し、補助金を交付する。
若い世代のスキルアップ支援	若い世代が様々な技術習得や資格取得を支援し、人材不足をカバーできるような人材の育成に取り組む。
母浜回帰プロジェクト	島出身の若い世代の U ターンを促進するための就業支援に取り組む。

本町の近年の人口動態をみると、町からの転出者が転入者を上回る「社会減」の数は減少してきており、2023（令和5）年は転入数（259人）が転出数（244人）を上回り、転入超過（15人）となる「社会増」に転じています。

引き続き、移住・定住促進に係る取組を継続し、受入体制を強化するとともに、民間企業や個人、金融機関等との連携により、空き家の利活用を含む住環境の充実化を図ります。

これまで、トライアスロン大会 IN 徳之島大会やスポーツ合宿、ふるさと納税等を通じ、多くの関係人口の皆様が親しまれてきました。近年の世界自然遺産登録やベストツーリズムビレッジの認定など、国内外における知名度向上の機会をチャンスと捉え、天城町の自然や文化・地域性に愛着を持つ「天城町ファン」のさらなる獲得に努め、交流人口や関係人口、二地域居住の拡大を図ります。

<数値目標>

目標項目	基準値	目標値（2029/R11）
人口の社会増減 ※年次計算	+15人（R5）	社会増
徳之島への入込客数 ※年次計算	131,295人（R5）	200,000人
ふるさと納税寄附件数	5,601件（R5）	8,000件

基本目標 2 – 施策目標

< 1 > 移住・定住の促進と人の流れの確保

UIターン希望者のニーズを的確に捉え、支援メニューの強化を図るとともに、本町の「シマ暮らし」の魅力が十分に伝わるよう、天城町移住情報サイト「おいでよ！魅惑のアマパゴス」やSNSを通じた情報発信やマッチングを行い、移住者が「住んでよかった」と思えるような環境の整備に努めます。

町営住宅の整備や空き家改修、新築住宅への補助等を引き続き進めるとともに、民間賃貸住宅の新築・改修等への支援を進め、定住促進に向けた住宅確保や、快適な住環境づくりに努めます。

〈関連するSDGs目標〉



重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (2029/R11)
移住相談窓口への相談件数	208 件 (R5)	230 件
移住した人数 ※	57 人 (R5)	180 人
住宅支援件数 (新築・改修) ※	25 件 (R5)	100 件

※令和3年度以降、移住相談窓口を活用した数の累計値

具体的施策

多様な居住ニーズに対応した住宅整備	子育て世代や高齢者世代、戸建て住宅や集合住宅など、住民の居住ニーズに沿った住宅を整備する。
コワーキングスペース ⁹ の推進	多様化する働き方に対応するため、コワーキングスペースの整備を支援する。
移住相談窓口における移住希望者への対応	移住希望者のニーズを把握しつつ、町の情報を適切に伝えることで、移住・定住を促進する。
空き家バンクの充実	空き家バンク制度の情報発信に努め、空き家の有効活用による定住促進を図る。
空き家バンク登録お片付け支援補助金	空き家内の片付けや敷地内の手入れ等に係る費用を支援することで、空き家バンクへの登録を促し、空き家の利活用を推進する。
空き家改修費補助金	空き家バンクに登録された物件の所有者等が行う改修、修繕等に対し、補助金を交付する。
お試し移住体験事業助成金	移住希望者が、お試しで移住できる機会を提供し、移住に必要な情報を収集するために滞在する費用の一部を支援する。
お帰りなさい住宅改修補助金	居住者のいない実家等の改修に係る費用を支援することで、出身者のUターンを促進する。
ウェルカムあまぎ引越費用補助金	島外から本町へ引越をする際に要した費用のうち、引越業者等へ支払った費用及び自動車等海上輸送費を支援し、移住定住を促進する。
新築住宅取得補助金	新築住宅または建売住宅を取得した者に取得費用の一部を補助することで、町内における住宅不足の解消や定住促進を図る。
単身者向け民間賃貸住宅整備の支援	賃貸住宅を建設することを条件に町有地等を提供し、民間の単身者向け賃貸住宅の整備を促進する。
母浜回帰プロジェクト（再掲）	島出身の若い世代の U ターンを促進するための就業支援に取り組む。

⁹ 様々なバックグラウンドの人々が共同で働く場所。

基本目標 2 – 施策目標

< 2 > 地域の魅力を最大限発揮した天城町ファンの獲得

天城町の持つ魅力を活かしたシティプロモーション¹⁰を展開し、地域資源の認知度やブランド力向上に努めるとともに、天城町の自然や文化・地域性に愛着を持つ「天城町ファン」の獲得を目指します。

長年にわたるトライアスロン I N 徳之島大会の開催やスポーツ合宿の受入など、これまで培ってきた「スポーツ愛ランドあまぎ」のブランドをさらに向上させるため、受入環境の整備や社会体育施設の機能強化、スポーツツーリズムの促進に努めます。

世界自然遺産登録地として豊かな自然環境を P R するとともに、環境保全活動体験を促進するなどレスポンスブルツーリズム¹¹やサステナブルツーリズム¹²の普及に努めます。

ふるさと納税や企業版ふるさと納税については、SNS や都市圏における物産展等で P R 活動を引き続き展開し、課題解決に向けた資金確保を行うとともに、町の魅力向上や地域活性化を図ります。

< 関連する SDG s 目標 >



重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (2029/R11)
スポーツ合宿受入延べ人数	6,565 人 (R5)	10,000 人
新規ふるさと納税寄付者数	3,759 件 (R5)	5,000 件
天城町ホームページ アクセス数 ※年次計算	555,964 件 (R6)	600,000 件

¹⁰ 地域の魅力をアピールして地域活性化や交流人口の増加を図る活動。

¹¹ 旅行先の地域や環境に配慮した観光。

¹² 現在と未来の環境、社会文化、経済への影響に十分配慮した観光。

具体的施策	
インフルエンサー ¹³ マーケティング推進プロジェクト	SNSインフルエンサー等の持つ情報発信力を活用し、本町の魅力を国内外に発信する。
人流可視化プロジェクト（再掲）	天城町にきた人の町内における移動データを収集、分析することでの的を絞った観光施策を推進する。また、公共交通や住民サービスの向上を図る。
グリーンツーリズム・ブルーツーリズム・スポーツツーリズムの推進（再掲）	農林水産業や豊かな自然、トライアスロンやスポーツ合宿等、徳之島の魅力を満喫できるような観光を推進する。
魅力ある体験型観光プログラムの造成と情報発信（再掲）	徳之島の豊かな自然や伝統文化を活用した体験型観光プログラムを造り、1日でも長く天城町に滞在してもらう環境をつくる。

¹³ 特定の分野やジャンルで影響力を持ち、強い情報発信力を持つ人。

本町においては、出会いから結婚・妊娠・出産・子育ての各ステージにおいて、様々な形で支援に取り組んできました。多様な生き方も推進しつつ、希望する誰もが理想とする結婚・妊娠・出産・子育てを実現できるよう後押しし、引き続き若者や女性に選ばれるまちづくりに取り組めます。

結婚から子育てまでに発生する様々な不安を解消し、本町において安心して結婚・妊娠・出産・子育てができるよう、地域全体の環境づくりに引き続き取り組めます。

教育面については、近年、離島という物理的なハンデがデジタルの力によって解決されつつあります。急速にデジタル化、グローバル化が進む社会環境の中においても力強く生き抜く力を身につけられる教育を推進するとともに、学習環境の拡充やキャリア教育の推進に取り組めます。また、様々な学びを通じて得られた知識や技術を地域に還元できる人材の育成に取り組めます。

<数値目標>

目標項目	基準値	目標値（2029/R11）
年少人口割合 ※年次計算	13.3%（R6）	14.0%

基本目標3 – 施策目標

<1> 結婚・妊娠・出産・子育ての実現

すべての町民が、それぞれのライフステージにおいて希望を叶えられる環境づくりを後押しします。

結婚については、結婚への考え方や出会いのきっかけが多様化していることを考慮しつつ、結婚に対する意識を高められるよう、出会いやすい・結婚しやすい環境づくりに取り組みます。また、結婚後の生活を応援するため、新婚夫婦への経済的支援も引き続き行います。

妊娠・出産・子育てについては、こども家庭センター（こそだてらす）を中心に、子育て世代が抱える様々な不安解消に向けたサポート体制を強化し、切れ目のない支援を行います。また、老朽化が進む保育所の再整備や保育施設等におけるデジタル技術活用の推進、保育人材の確保にも取り組みます。

よりよい子育てを実現するためには、当事者だけでなく地域全体が関与することが重要です。中高生世代、子育て世代、祖父母世代のそれぞれの時期において子育てに関する正しい知識や制度について学ぶ場を設けます。

<関連するSDGs目標>



重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (2029/R11)
天城町の子育ての環境や支援への満足度 (5段階評価)	3.86 (R6)	基準値比 増
未婚者のうち、「結婚したい」「どちらかといえば結婚したい」人の割合	72.8% (R6)	基準値比 増

※「天城町こども計画」アンケートより

具体的施策

対面・非対面（オンライン）で交流できる場の創出（マッチングアプリ整備、農作業と連動した交流の場づくり）	マッチングアプリ等を活用した非対面型の交流や農作業を通じた対面型の交流など、交流しやすい環境づくりを支援する。
天城町出会い・結婚応援イベント開催事業補助金	独身男女に出会いの場を提供する事業や結婚を推進するための事業を行う団体や飲食店等へ補助金を交付する。
単身者向け民間賃貸住宅整備の支援（再掲）	賃貸住宅を建設することを条件に町有地等を提供し、民間の単身者向け賃貸住宅の整備を促進する。
新婚さん応援生活補助金	新婚世帯が新生活を送るために必要な費用の一部を支援し、定住促進を図る。
妊活や不妊治療への支援	妊活や不妊治療に関するあらゆる負担を軽減するための支援を拡充する。
子育て世代への経済的支援	子育て世代が抱える経済的な負担を少しでも軽減できるよう、支援を継続する。
産前産後ケアの充実	保健師や助産師等による家庭訪問や相談対応を充実させ、育児不安の解消や心身の負担軽減に取り組む。
乳幼児や保護者が交流できる場の創出	子育て中の親子同士が交流できる場を創り、地域から孤立しない環境を創る。
雨天時でも子どもが遊ぶことができる環境づくり	雨天時でも子ども達が思い切り遊ぶことができる環境をつくる。（遊休施設等の活用）
授乳室やおむつ替えスペースの拡充支援	授乳室やおむつ替えスペースを拡充し、外出時の子育て世代の不安を解消する。
デジタル技術を活用した子育て支援や小児医療の充実	オンライン上で子育てに関する悩みや病院受診できる環境を拡充する。
保護者が安心して子育てと仕事を両立できる環境づくり	ワーク・ライフ・バランスが実現できるよう、子育てしやすい環境づくりや雇用側の理解を高められるような普及啓発に取り組む。
地域ぐるみの子育て支援	変化し続ける子育てへの考え方や環境を町全体が正しく理解できるよう、広報誌や天城町ユイの里テレビ（A Y T）で周知・啓発する。

基本目標 3 – 施策目標

<2> 充実した教育・学習環境づくり

学校・家庭・地域との連携を図りながら、本町の豊かな自然や文化、地域人材を活かした教育活動を展開し、未来のしまづくりに取り組む人材を育成します。

新しい時代において活躍する力を育てるため、われんきゃグローバルプロジェクトを通じて日常的に英語・英会話に触れる機会の創出やデジタル技術を活用した学習環境の拡充を積極的に推進していきます。

多様化するライフスタイルの中で、子どもだけでなく、大人の学習意欲にも応える教育環境を提供します。生涯学習講座や放送大学等による学習環境を整備・拡充することで、豊かな生涯学習社会の実現を目指します。

<関連する SDG s 目標>



重要業績評価 (KPI)	基準値	目標値 (2029/R11)
ICTを活用した授業の割合	小学校 平均 60% 中学校 平均 26%	小学校 平均 100% 中学校 平均 100%
全国学力・学習状況調査 各教科通過率	小学校 県平均+0.9% 中学校 県平均+1.7%	小学校 県平均+3.0% 中学校 県平均+2.0%
英語検定受検者数	62 人	100 人

具体的施策

未来を創造する人育ちプロジェクト	学齢期に様々な職種の事業者へインタビュー等を行い、将来に向けて選択できる力を身につける取組。
シマしごとを知ろうプロジェクト	伝統的な産業や島の暮らしを支える職業について知る機会を創出し、シマ担う人づくりに努める。
キャリア教育の充実（インターンシップ ¹⁴ 等）	国内企業への見学等を通じて自分の将来をイメージし、人生設計を組み立てられる人材を育成する。
義務教育学校の体制づくり	義務教育9年間の体制をつくり、地域と一体となった学校運営を進める。
ICTを活用した教育の拡充	これまでに導入したICTの活用をさらに推進し、デジタル化社会に対応できる人材を育成する。
われんきゃグローバルプロジェクト	国内外の派遣事業における日常的な英会話体験や英語を使ったコミュニケーション等を通じて、国際感覚を身につけた人材を育成する。
若者応援事業	就学奨励金制度の対象学部等を拡充し、学習意欲のある子ども達の家庭の経済的負担軽減を図る。
学校の空き教室を有効活用した取組	学校の空き教室等を活用し、放課後の居場所として子どもも保護者も安心できる環境づくりを支援する。
郷土学習の推進（われんきゃガイド、世界自然遺産学習「あまぎ学」）	子ども達が地域の歴史や魅力、世界自然遺産としての価値を学び、調べ、発信することで次世代を担う人材を育成する。

¹⁴ 学生が在学中に企業などで実際の仕事を体験する制度。

人口減少や少子高齢化に対応しつつ、町民が明るい笑顔で、日々の暮らしに満足できる地域コミュニティを維持していくことが求められます。本町に古くから根付いてきた“ユイ”の精神を通じ、豊かな社会の実現に向けた「共生協働」や「共助」の取組を進めます。

また、貴重な地域資源である伝統文化や豊かな自然等、地域に根付いてきた歴史を記録として残し、多世代間の交流を通して受け継いでいくサイクルをつくることで、豊かな社会と持続性の高い魅力的なシマの実現を目指します。

地域を維持していくためには、そこに住む住民の活力が必要不可欠です。地域づくりの中心である町民が健康で、心豊かに暮らすことができる施策を展開します。

多様化する社会の中で、老若男女問わず、全ての町民がそれぞれのライフステージで活躍し、主役となれる地域を目指します。

<数値目標>

目標項目	基準値	目標値（2029/R11）
天城町に住みたい続けたいと思う人の割合	89.7%（R1） ※第2次総合戦略策定時	基準値比 増

基本目標 4 – 施策目標

< 1 > 持続可能な地域づくり

集落の伝統文化や歴史等を次世代に継承していくため、デジタル技術を活用し、ユイの館を中心とした文化財や郷土資料、A Y Tの記録映像などの保存・活用に努めます。また、子どもから高齢者までが積極的に交流できる環境づくりを支援していきます。

世界自然遺産に登録された多様な生物が生息する森や美しい海など、豊かな自然環境の保全に取り組むとともに、自然とのふれあい活動を通じた心身の健康づくりを推進します。

大規模化する台風や地震等の自然災害に備えるため、国土強靱化計画に基づく施策やインフラ整備等に加え、町民や集落の防災意識・防災力を高め、安心安全な地域をつくります。

加速化する気候変動に対応しつつ、再生可能エネルギーの活用やごみの排出量削減等、脱炭素社会の実現に取り組みます。

町民が健康に過ごしていくため、医療体制や福祉の充実、介護予防の推進に取り組みます。

町民や来訪客の移動手段となる公共交通の維持・確保に取り組むとともに、利便性を向上するためデジタル技術を積極的に活用していきます。

< 関連する SDG s 目標 >



重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (2029/R11)
総合防災訓練への参加者数	702 人 (R6)	対前年度比 増
天城町内のごみ排出量削減	1428.09 t (R6)	1367.04 t
ゆいゆいサロン等への参加率 (75 歳以上)	14.5% (R5)	30.0%
デマンドバスの利用者数	3,871 人 (R5)	5,500 人

具体的施策	
多世代交流の促進（eスポーツ ¹⁵ 活用、伝統文化等の継承）	様々な手段を活用し、子ども達から高齢者までの多世代が交流できる場をつくる。
地元を知ろうプロジェクト	転入者等が町内のツアーやイベント等を通じて地元のことを知ること、島を大事に思う気持ちを醸成する。
集落リモコン（ラジコン）草刈機レンタルプロジェクト	リモコン式の草刈機を導入し、人手不足によって雑草が繁茂した集落内の環境整備を支援する。
山海留学制度の推進	山海留学受入を推進し、地域の維持・活性化に取り組む。
学校教育施設・地域一体型複合施設の整備に向けた検討	町内の学校教育施設を地域の交流複合施設としての一体的な整備を検討する。
文化財や郷土資料、映像のデジタルアーカイブ ¹⁶ 化の推進	町内の文化財や郷土資料、AYTの映像をデジタルアーカイブ化し、後世に継承していく。
自主防災意識向上プロジェクト	自主防災組織を中心に集落ごとの防災マップを整備し、日頃からの備えや地域コミュニティ強化に取り組む。
TSUNAMI 避難タワー建設計画	海拔の低い地域に垂直避難ができるタワーを整備する。
防災関連施設への再生可能エネルギーの導入	災害による避難の長期化等を想定し、避難所を中心とした施設に再生可能エネルギーを導入する。
ていだテラスを活用した移動販売	役場庁舎の「ていだテラス」を弁当などの移動販売ができる場として提供する。（昼食で帰宅する人が減ること、排気ガスの排出量削減につながる。）
バスを活用した移動販売による交通弱者・買物弱者支援（山手線・海手線）	山沿いと海沿いを周回する食料品等を載せた町内バス路線をつくり、交通弱者や買物弱者を支援する。
ライフモビリティプロジェクト	予約制タクシーやシェアサイクル・シェアカーなど、住民や観光客が快適に移動できる環境づくりを支援する。
デジタル技術を活用した公共交通ネットワークの整備	公共交通サービスを効率的に活用できるようなネットワークを構築する。
公共交通×健康増進プロジェクト	公共交通の運行時刻に合わせた交流の場や講座等を計画、高齢者の外出を促し、フレイル ¹⁷ 発生を予防する。

¹⁵ 電子機器を用いて行う娯楽や競技、スポーツ全般。

¹⁶ デジタル技術を用いて記録や資料を保存し、公開する仕組み。

¹⁷ 健常から要介護へ移行する中間の段階

基本目標 4 – 施策目標

<2> 誰もが活躍できるまちづくり

少子高齢化が進む中、地域コミュニティを維持していくためには、子どもから高齢者まで、男女問わず全ての人々が活躍できる地域であることが重要です。

若い世代のうちから主体的に考え、行動力のある人材を育成するため、学校や企業、地域等と連携し、豊かな自然や文化等の地域資源を活かした教育活動を展開することで、郷土の魅力を知る機会を提供します。

町内唯一の高等学校である樟南第二高等学校との包括連携協定に基づき、高校生の地域づくりへの参画に取り組んできました。多様な主体と連携し、生徒が地域づくりに参加できる機会を創出することで、将来の島を担う人材の育成を支援します。

貴重な資源である高齢者が有する知識や技術をデジタル技術によって保存・継承し、高齢者が活躍できる環境づくりに取り組みます。

町民一人ひとりがあらゆるジェンダーギャップ¹⁸の解消に努め、お互いに尊重しながら、性別に関係なく活躍できる「ジェンダー平等推進のまち あまぎ」を推進します。

<関連する SDGs 目標>



重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (2029/R11)
樟南第二高等学校との包括連携に基づく取組数	2事業 (R6)	4事業
鹿児島県女性活躍推進宣言企業数	1件 (R6)	3件 (累計)

¹⁸ 男女の違いにより生じる格差。

具体的施策

農福連携～天城町シニア福祉農園プロジェクト～（再掲）	「シニア&福祉農園」など、高齢者や障がい者が働ける場を提供する。農業を通じて地域の生産力向上だけでなく福祉の充実を図る仕組みを構築し、地域全体で支え合う地域づくりを推進する。
樟南第二高校との包括連携協定に基づく連携の推進	樟南第二高校の生徒のアイデアや技術を町政運営に活かすため、授業内外での連携体制を強化する。
中高生の主体的な活動に対する支援の拡充	町内の中高生が主体となって実施する取組を多面的に支援する。
A Y T や S N S 等を活用した魅力的な情報発信体制の強化(プロジェクトA)	AYT を活用し町民が知りたい情報や地域情報など、独自番組の制作・放送による活性化に取り組む。 (町内店舗等の紹介、島口講座、教育、郷土料理 等)
持てる力を発揮しよう！プロジェクト	自身が持つ技術や特技などを人材バンクとして登録し、生涯学習や各種講座、仕事を通じて次世代へ継承する。
一生輝く人生プロジェクト	現役を引退された方を中心に、個人が持つ力を発揮し、町の担い手として活躍できる環境づくり。 (シルバー人材センターの取組活性化等)
郷土学習の推進（われんきゃガイド、世界自然遺産学習「あまぎ学」）（再掲）	子ども達が地域の歴史や魅力、世界自然遺産としての価値を学び、調べ、発信することで次世代を担う人材を育成する。
ジェンダー平等に関する普及啓発	町内の個人・企業に対するジェンダー平等推進の普及啓発活動を推進する。

参 考 第3次天城町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の経過

1. 第3次総合戦略策定に係る主な検討経過
2. 天城町まち・ひと・しごと創生本部名簿
3. 天城町まち・ひと・しごと創生プロジェクトチーム名簿
4. 天城町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定審議会名簿

1. 第3次総合戦略策定に係る主な検討経過

〈天城町まち・ひと・しごと創生本部〉

町長を本部長、副町長を副本部長とし、教育長及び各課長・局長から構成。プロジェクトチームからの提案や庁内の意見等を集約し、本町が進むべき将来像を明確にした上で総合戦略の策定を行った。

- ◆第1回 令和6年11月29日（金） 開催
- ◆第2回 令和7年2月20日（木） 開催
- ◆第3回 令和7年3月14日（金） 開催

〈天城町まち・ひと・しごと創生プロジェクトチーム〉

若手・中堅職員を中心とする16名で構成し、「経済・地域振興チーム」と「住民福祉・教育チーム」に分けて協議。現状把握と課題抽出を行い、グループワーク等を経て、次期総合戦略において展開する施策やプロジェクトの検討・提案等を行った。

- ◆第1回 令和6年10月29日（火） 開催
- ◆第2回 令和6年11月13日（水） 開催
- ◆第3回 令和6年12月11日（水） 開催
- ◆第4回 令和7年1月9日（木） 開催

〈天城町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定審議会〉

町民代表と産官学金で構成し、天城町まち・ひと・しごと創生本部へ多様な視点からの意見提案を行うとともに、戦略案の審議を行った。

- ◆第1回 令和7年1月24日（金） 開催
- ◆第2回 令和7年2月25日（火） 開催
- ◆第3回 令和7年3月27日（木） 開催

〈パブリックコメント〉

戦略案について、広く町民の皆様より意見を募集するためパブリックコメントを実施した。

- ◆意見募集期間 令和7年3月17日（月）～令和7年3月24日（月）
- ◆パブリックコメント結果 0件

2. 天城町まち・ひと・しごと創生本部名簿

天城町まち・ひと・しごと創生本部 名簿

	役職	職名	氏名	備考
1	本部長	町長	森田 弘光	
2	副本部長	副町長	禰 清次郎	
3	委員	教育長	院田 裕一	
4	委員	総務課長	福 健吉郎	
5	委員	くらしと税務課長	高 芳征	
6	委員	長寿子育て課長	廣田 泰望	
7	委員	けんこう増進課長	中村 慶太	
8	委員	農政課長	上岡 久人	
9	委員	農地整備課長	柚木 洋佐	
10	委員	建設課長	宮山 浩	
11	委員	商工水産観光課長	梅岡 拓司	
12	委員	会計課長	関田 進	
13	委員	議会事務局長	山田 悦和	
14	委員	選挙管理委員会書記長	里山 浩一	
15	委員	農業委員会事務局長	廻 美沙	
16	委員	水道課長	西松 清仁	
17	委員	教育委員会総務課長	和田 智磯	
18	委員	教育委員会社会教育課長	中 秀樹	

【事務局】

職名	氏名
企画財政課 課長	森田 博二
企画財政課 課長補佐兼係長	福田 光宏
企画財政課 主任	吉野 琢哉

3. 天城町まち・ひと・しごと創生プロジェクトチーム名簿

天城町まち・ひと・しごと創生プロジェクトチーム

【経済・地域振興チーム】

	課名	係名	氏名	備考
1	総務課	広報係	麓 良平	
2	企画財政課	グリーン戦略係	古川 和幸	
3	企画財政課	ふるさと創生室	中水 翔午	
4	農政課	農政係	島 優奈	
5	農政課	農業センター	坂田 一隆	
6	建設課	建築係	友野 光	
7	商工水産観光課	商工観光係	真田 裕史	
8	総務課	デジタル推進係	記原 健悟	※デジタルアドバイザー

【住民福祉・教育チーム】

	課名	係名	氏名	備考
1	総務課	防災対策係	奥山 隆志	
2	企画財政課	企画統計係	實 華加	
3	くらしと税務課	戸籍住民係	米村 真梨子	
4	長寿子育て課	児童福祉係	三島 照美	
5	けんこう増進課	保健センター	田平 昌子	
6	けんこう増進課	地域包括支援センター	吉垣 汐美	
7	教育委員会社会教育課	指導係	福山 晋也	
8	総務課	デジタル推進係	浜田 博隆	※デジタルアドバイザー

【事務局】

課名	役職	氏名
企画財政課	課長	森田 博二
企画財政課	課長補佐兼係長	福田 光宏
企画財政課	主任	吉野 琢哉

4. 天城町まち・ひと・しごと総合戦略策定審議会

天城町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定審議会名簿

	分野	所属名	役職	氏名	任期	備考
1	住民	住民代表 (天城町男女共同参画懇話会)	会長	仲 恵	令和7年1月24日～令和9年1月23日	
2	住民	住民代表 (移住コンシェルジュ)		川村 祐貴	令和7年1月24日～令和9年1月23日	
3	住民	住民代表 (情報)		吉垣 匡敏	令和7年1月24日～令和9年1月23日	審議会 副会長
4	産	天城町地域づくり協議会	会長	豊 昭仁	令和7年1月24日～令和9年1月23日	審議会 会長
5	産	天城町商工会	経営指導員	狩集 大	令和7年1月24日～令和9年1月23日	
6	産	(一社)徳之島観光連盟 天城町支部	支部長	豊村 友樹	令和7年1月24日～令和9年1月23日	
7	官	環境省 徳之島管理官事務所	管理官	大谷 慧	令和7年1月24日～令和9年1月23日	
8	官	天城町議会	議長	上岡 義茂	令和7年1月24日～令和9年1月23日	
9	官	天城町	副町長	禰 清次郎	令和7年1月24日～令和9年1月23日	
10	学	大正大学 地域構想研究所	准教授	岩浅 有記	令和7年1月24日～令和9年1月23日	有識者
11	学	樟南第二高等学校	教頭	今田 将明	令和7年1月24日～令和9年1月23日	
12	金	(独)奄美群島振興開発基金 徳之島事務所	所長	泉 雅子	令和7年1月24日～令和9年1月23日	
13	金	鹿児島銀行 徳之島支店	支店長	船蔵 竜一	令和7年1月24日～令和9年1月23日	

【事務局】

企画財政課 課長	森田 博二
企画財政課 課長補佐兼係長	福田 光宏
企画財政課 主任	吉野 琢哉

第3次天城町まち・ひと・しごと創生総合戦略

発行日 令和7年3月

発行 天城町役場

〒891-7692 鹿児島県大島郡天城町平土野 2691-1

TEL0997-85-3111(代表) <https://www.town.amagi.lg.jp/>

